

【平成30年度矢口小学校授業改善プラン】

家庭科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・体験的・実践的な活動を通じた授業を行った結果、日ごろの生活に生かす児童が増えた。しかし、児童間に差がある。
- ・児童の、互いの経験を交流する時間の確保をしたことで、学んだことを生かして、生活をよりよくしようとする児童が増えたが、今後も引き続き課題として継続して取り組む必要がある。

家庭科における内容別・観点別分析

	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する 能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・技能
観点別 結果の 分析	(1) 家族とのかかわりを考え、生活をよりよくしようとする取り組みが見られる。 (2) 学習内容を定着させるために学習後に家庭で再度取り組むことや、生活に生かすことを促したが、取り組みの状況に個人差が大きい	(1) 学習したことや体験したことを、日常生活に活かそうとしている。 (2) 自分の生活時間見直し、よりよくしようと努力を続けている	(1) 児童個々の生活経験により差があるが学習を進めることで技能を高めてきている。しかし、個人差は大きい。	(1) 学習内容はおおむね理解している。 (2) 学習で得た知識と実生活が結びついているとは言えない。

授業改善のポイント

分析を受けて、取り組む柱

- 衣食住に関して、これまでの生活経験について児童間に差があるので、日常生活と授業内容の関連を図り、生活に取り入れやすい活動を行う。
- 技能面で個人差が大きいので、確実に基礎的な技能を身に付けさせるとともに、学び合いを通してさらに高めていく。
- 基礎的事項の理解と知識の定着を図るために、学習から得た知識が、児童自身の生活に生きる知識となるようにする。

家庭科の授業改善策

- 日常生活と学習の関連を図るために…
 - (1) 児童の日常生活や学校行事に即した教材の開発に取り組む。
 - (2) 各単元の導入段階で、自分の生活を見つめたり振り返ったりする活動を取り入れる。
- 技能をさらに高めるために…
 - (1) 授業で作成した作品を自分の生活で活用することにより、自分の技能の振り返りと次回に活かすことを考えさせる機会とする。課題ができた児童が先生役になり、友だちに教えることで、学び合いながら技能を高め合う。家庭での課題も与え、経験の場を多く設定する。
- 学習から得た知識が、児童自身の生活に生きる知識となるようにするために…
 - (1) バランスのとれた献立を考えるなど、学習で取り組んだ直後に、家庭での実践を促すためのワークシートを用意し、学習内容の定着度を高める。
 - (2) 児童が互いの経験を交流することができる場を増やす。

平成30年度の成果と課題

・
・